

えびぞり

8

立川と語ろう 立川に生きよう
August 2003
écoutez bien Vol.22 No.225

表紙の人／クロード・デコート（高松町）
写真／細江英公



川は古くから人の暮らしとともにあった。
魚などの恵みをもたらす農地を潤し人々に安らぎを与え子どもたちの遊び場にもなる。
ひとたび氾濫すれば恐ろしい貌もみせる。
川は多摩の風土を培ってきた。

最初是一滴から...

一ノ瀬川上流 多摩川源流部

写真：中村 伸

笠取山は山梨・埼玉県境の山。多摩川、利根川、富士川の分水嶺でもある



源流はすぐ清冽な流れに。
水場の水は冷たく微かに甘い



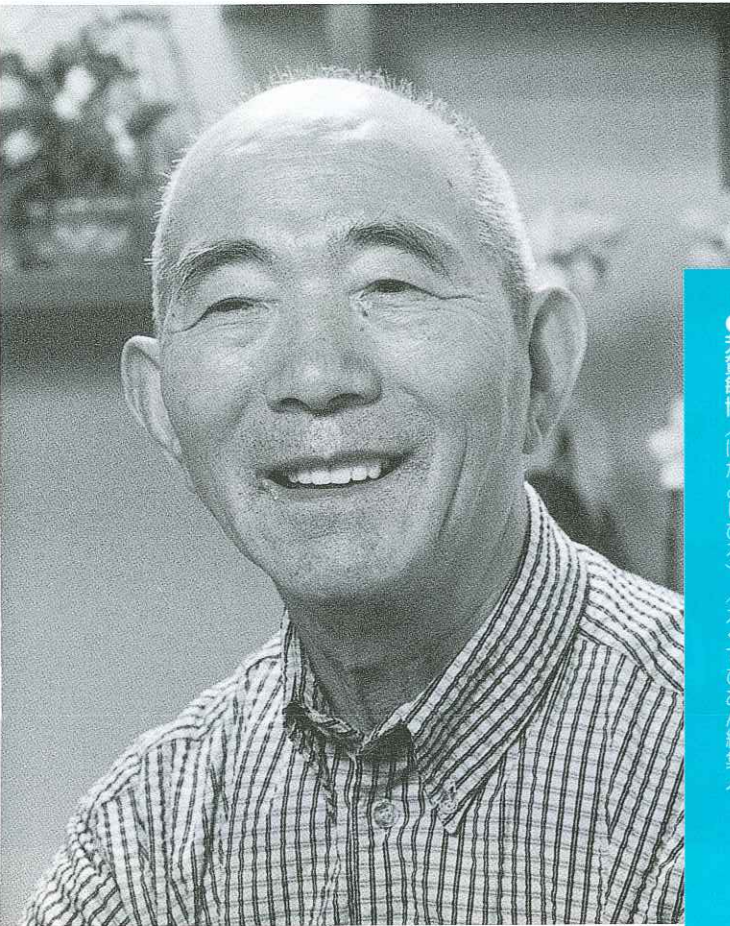
水干の上に水神社の小さな祠

多摩川延長138kmの旅は、一滴の水から始まる。明治11年、東京府から指示を受けた山城裕之が奥秩父連峰笠取山（1953m）頂上に近い水干を多摩川源頭と定めた。以来、ここが多摩川誕生の地とされる。

水干を訪ねて一ノ瀬川上流の作場平から笠取山に登った。同行は立川在住の守屋龍男さんら。源流一帯は東京都水道局の水源地で檜や唐松の人工林のほかにミズナラ、ブナなどの天然林が豊かな森をなしている。

水干は山の南東斜面、本沢の尽きたところにあった。苔むした岩の間や草の葉先から、ぽとり、ぽとりと水滴がこぼれる。少し下れば小さな湧き水や沢の水を集めて鮮烈な流れが奔る。山道で中学生の団に出会った。多摩川河口の川崎市から前日、もう一つの多摩川源流である小菅川を訪ね、一泊してきたのだという。一滴の水は一ノ瀬川から丹波川、さらに小菅川と合流して奥多摩湖で多摩川になる。旅は長い。

とうとうと流れる多摩川を、もういちど見たいな。



立川観光協会会長

三田鶴吉さん

●三田鶴吉（みた つかさち）
大正十三年（一九二四年）西多摩郡調布村（現青梅市）生まれ。特攻隊員として中国で終戦を迎え四六年復員。その後立川市で三田花店を開店し日本有数の花店に育てる。多くの要職をつとめる。一方で多摩地域の歴史、自然、民俗の研究を続け地域文化を語る上で欠かせない存在。著書多数。多摩川の禁猟区化やクリーン多摩川運動、カワラノギク復活などボランティア活動にも行動力を発揮している。
●芳賀敏博（はがとしひろ）／えくてびあん編集人

於：立川市錦町「更科 もとおか」
写真：五来孝平

芳賀 おかげさまで、えくてびあんのこの8月号で創刊20年になります。その時期に編集を引き継ぐことになって、これから一年の大テーマを何にしようかと実は悩みました。行きづまったときはよく多摩川べりでポーッとするんですが、今回も川を眺めているうちに「そうだ、この川だ」って。多摩川は支流の浅川、秋川を含めてとても大きな存在ですからね。そのスタートの対談ならやはり三田さん。なにしろ三田花店のキャッチフレーズは「川は多摩川花は三田」ですから（笑）。
三田 言葉もそうだけど、もうひとつシンボルがあってね——なまずなんです。彫刻家の関頑亭さんに描いてもらったなまずが、うちのシンボルマーク。

芳賀 どうして……なまず？
三田 なまずはどこにでもいて貴重な蛋白源になった魚だから。蒲焼きがうまいんだよ。以前は立川でも川魚を専門に捕っている人がいて、よく持ってきてくれたし、いまは中央道の下になっているあたりの田圃でいくらでも捕れた。どじょうもたくさんいてよく食べました。そんなふうには、みんな多摩川にお世話になったんです。
芳賀 三田さんは「多摩川は教科書だ」という文を西武新聞に連載していますが、同時に「多摩川は貯金箱でもあり弁当、薬でもある」とよくおっしゃいます。これは川とともに暮らした人でないとでてこない喩えですよ。川が身体の一部であるような。

三田 生まれた家のすぐ下が多摩川で、いまと違って昔は水量がものすごかった。その瀬音を聞いて育ち、泳いで何度おぼれて死にそうになったことか（笑）。
芳賀 本流は危ないから、泳ぐのは止められていたんでしょ？
三田 関東大震災後の復興のために、青梅のあたりは東京市が直轄で砂利を掘っていて、その跡が大きな深みになっていたんです。実際おぼれて死んだ子どももいたけど、みんなそこで泳いだ。最高の遊び場だったんだね。裸足で川に入っていると足の裏に魚が潜ってきて……あの感触は忘れられないですよ。
芳賀 そういところで泳ぎを覚えると、泳ぎが達者になるわけだ。
三田 そうそう。出水の後、流木が流れてくるとそれを取りに泳いでいく。昔はガスなんてなくてみんな薪でしょ。流木を薪にしてご飯を炊いたり湯をわかしたり。
芳賀 命がけじゃないですか！
三田 流木を無理に引き上げようとするとひきずり込まれる。死んだ人もいました。流木をつかまえて岸にとまったら、石を置いて離れるんです。石を上に乗せておくだけで、これは誰かが見つけたんだと他の人は絶対に持っていかなかった。いまじゃ考えられないけど、それでよかった。水が引いて乾いて軽くなってから家に運べばいい。
芳賀 奥ゆかしい習慣だなあ。
三田 魚捕りでも、流し針といって夕方仕掛けておく漁があって、目印に石を積んでおくとその前後30mくらいには誰も針をかけない。多摩川にはそういうルールがいっぱいあったんです。そういうことは、みんなじいさんたち

から自然に教わった。私の祖父は慶応元年生まれで私とちょうど60歳離れているんだけど、この祖父が風呂に入ったりしながら昔話やいろんなことを教えてくれました。「角さんの話」はそれをまとめた本だけど、書き漏らしたり忘れてしまった話もたくさんあるね。
芳賀 それだけ多摩川が豊かで、みんな川から恩恵を受けているから守るべきことも徹底していたし、自然に対する畏れみたいなものも伝承されたんでしょうね。
三田 豊かだったね。群衆がつくというんだけど、秋のお彼岸が終わったころに、こんなに捕れていいのかっていうほど鮎を捕ったことがあります。昭和15、6年頃。ころがしという釣りで、ひとつの竿に2匹もかかって、それが25cm、30cmの鮎ですからね。でっかいですよ。いまと違って……。
芳賀 それが変わったのは、やはり高度経済成長の頃から？
三田 昭和25年あたりから水が汚れて、立川あたりでは川魚が食べられなくなった。川魚屋というがあったんですが、商売にならなくて消えていったのもその頃。昭和40年くらいになるとひどい状態だね。
芳賀 そういなかで、三田さんは多摩川の狩猟禁止を訴えて東京都の鳥獣保護委員になったり、市民が自主的に河川敷の清掃をするクリーン多摩川を始めたり。大正初期に鮎の放流を初めて行った石川千代松さんを顕彰する「若鮎の像」や、江戸時代の渡し場を記念する「日野の渡し碑」も建てられた。それはやっぱり多摩川への愛……ですか？
三田 うーん……私の生まれた青梅の

友田と羽村の間に架かっていた多摩川橋は昭和14年に鉄骨橋になるまで多摩川最下流の吊り橋ですね。その橋の上で出征兵士を送るんだけど、風で轢がちぎれて飛ばされてしまう人が幾人かいて、その人は不思議に戦地から帰ってこなかった。それから、立川の日野橋のあたりでも河原に30cmくらいの布に戒名と南無阿弥陀仏と書いて四隅を竹でとめてあって、戒名を見るとどれも「……信女・禅定尼」。お産で亡くなった農家のお嫁さんですよ。通りがかりの人が川の水をすくってかける。布が早く破れると成仏できるといってね。そんな布がいくつもあった。大きな背負い籠を背負ったおばあさんがいつまでも水をかけていて、見ても哀れでね。忘れられない光景ですよ。
芳賀 多摩川の水は人に恵みを与えるだけじゃなく、人々の苦労や悲しみを見守り、亡くなった人を供養する水でもあったんですね……そういう川の前で、人は謙虚でなくちゃ。
三田 クリーン多摩川で集まるゴミも最近はずっと少なくなって水もきれいになりましたが、水量は昔に比べたら見る影もない。関東の大きな川の中流域だけに生えるカワラノギクは定期的に河原が水で洗われなくて育たないらしく、多摩川ではほとんど絶滅しようとしています。下水を処理した水を戻したりしているけど、いいところはみんな人間がもらって、その余りを川に戻すのではなんだか川に申し訳ないといけないうちでできるかどうかかわからないけど、とうとうと水の流れる多摩川をもういちど見たいねえ。

富士見町	株式会社 一如社	富士見町5-1-7 527-2211
	株式会社 立川印刷所	富士見町5-6-15 524-3268
	SHOP99 立川富士見町店	富士見町6-15-3 540-1799
砂川町	JA経済センター立川店	砂川町2-44-3 536-1824
	JA東京みどり 立川支店	砂川町2-44-3 536-1821
	沖縄料理・古酒 KINGS CROSS	柏町3-1-2 536-1774
柏町	ベーカリー リオンドール	柏町3-3-5 535-4882
	うなぎ専門店 うなちゃん	柏町4-61-13 536-6240
	レストラン&BAR WEST PORT	柏町4-64-3 536-4569
泉町	東京消防庁立川消防署	泉町1156-1 526-0119
	和菓子・甘味処 甘泉堂	曙町1-14-12 522-4305
	不動産 大晋商事	曙町1-23-9 525-3110
	蕎麦懐石 無庵	曙町1-28-5 524-0512
	ピストロ シェ・タスケ	曙町1-28-14 527-5959
曙町	あら井鮎総本店	曙町1-30-13 522-2957
	Cut Studio SOFIA	曙町1-30-21 528-3241
	三田花店 ルミネ立川店	曙町2-1-1-1F 527-5587
	KIRIN COFFEE ルミネ店	曙町2-1-1-1F 527-2322
	オリオン書房 ルミネ立川店	曙町2-1-1-7F 527-2311
	印章 印徳 ルミネ立川店	曙町2-1-1-7F 527-1260

えくてびあんの輪
人があて、街があります。
あなたがあて、立川があります。
そこにちょっとだけ、えくてびあん！
リストのお店にはいつでも、えくてびあん！

今月は富士見町・砂川町・柏町・泉町・曙町のお店です。

曙町	朝日カルチャーセンター 立川	曙町2-1-1-9F 527-6511
	東京赤十字血液センター	曙町2-1-1-9F 527-1140
	和生菓子製造直売 日の出屋 本店	曙町2-2-18 522-3308
	オリオン書房 第一パート店	曙町2-2-25-3F 523-3311
	みずほ銀行 立川駅前支店	曙町2-4-5 522-5151
	みずほ銀行 立川支店	曙町2-4-5 524-3121
	お菓子の家 エミリーフロアゲ 本店	曙町2-5-1-1F 527-1138
	カフェ クリムト	曙町2-5-1-2F 526-3030
	宮地楽器 MUSIC JOY 立川北	曙町2-5-18-7F 527-6888
曙町	三井住友銀行 立川支店	曙町2-6-11 522-2151
	Italian Cuisine サヴィニ	曙町2-7-10 525-1662
	多摩中央信用金庫 本店	曙町2-8-28 526-1111
	たましんギャラリー	曙町2-8-28-9F 526-1111
	三上 鯉節 店	曙町2-8-30 522-3259
	旬彩懐石 若草茶屋	曙町2-8-30 526-0010
	フロム中武 1F受付	曙町2-11-2-1F 524-7111
	輸入文具 ホワイトハウス	曙町2-11-2-4F 525-8558
	ステンドグラス ぱさーじゅ	曙町2-11-2-4F 522-1941
	スバゲティ専門店 はしや	曙町2-11-2-4F 528-2338
	立川リージェントホテル	曙町2-11-7-2F 522-1133

写真：五来孝平



VIEW

公園に、田園。

昭和記念公園 こもれびの里の田植え



生まれて初めての田植えに悪戦苦闘



田植えが終わる頃、雨が降り始めた

市民の手で昭和30年頃の農村を再現しよう……

昭和記念公園こもれびの里は、昨年国営公園の一画に設けられた手作りの田園。ことし、初めてたんぼを作り、田植えを行った。

子どもも大人も農家の人に教えてもらいながら、慣れない手つきで苗を植えた。豆や葱も植え付けた。秋に播いた麦も刈った。梅干しも漬けた。やがて穂を出し黄金の稲穂が実るだろう。苦勞も多いが秋の稔りが楽しみだ。人の手で、伝統の技術で、現代の里が少しずつ形をなしてきている。



この日は実った小麦も刈り取った

※国営昭和記念公園 こもれびの里の田植えは、多摩てばこネットHP (<http://www.tamatebako-net.ne.jp/>) でもご紹介しています。



品種はキヌヒカリ。苗は市内の農家から分けてもらった

立川と多摩地域が
もっと楽しいホームページ

多摩てはこ
ネット

http://www.tamatebako-net.ne.jp/

多摩てはこネット編集工房
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武蔵ビル2F
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609
e-mail message@tamatebako-net.ne.jp

常楽我浄

真如苑提供番組くじょうくじょう

スカイパーフェクトTV 216ch、マイテレビ 84ch

土 曜 午前9時～9時15分
午後7時15分～7時30分
再放送/火曜 午前9時～9時15分
午後7時45分～8時
放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて六十六年

真如苑

柴崎町1-2-13 Tel. 527-0111(代)

たましん おかげさまで70周年



すべては「お客さまの幸せづくり」のために。
70周年を迎えたたましんを、
これからもよろしくお願ひします。

多摩中央信用金庫 http://www.tamashin.jp

私たちは「と」のための会社です。

人と人、企業と企業、企業・商店とお客さま……
いろいろなコミュニケーションがあります。
私たち大廣社は、この「と」を的確に、迅速に、効果的に、
行なっている会社です。

と

大廣社は、企画デザインから
印刷加工まで自社内で完結しています。

PLANNING・DESIGNING
PROCESSING・PRINTING
大廣社
〒190-0022 東京都立川市錦町5-17-13
TEL 042-527-1948 FAX 527-1949
E-mail info@daikousya.jp

えくてびあん流

羽ばたけ！ プール生まれの トンボたち



※見影橋公園プールの「ヤゴ救出作戦」は、多摩てはこネットHP
(http://www.tamatebako-net.ne.jp/tamake/tamake0306.html) でも
ご紹介しています。

水泳シーズンが終わって秋から冬の間、水を張ったままにしておく野外のプールが、生きものたちのオアシスになっていることをご存じだろうか？ 枯れ葉が底に沈んだ水の中にはアカムシや小さな水生昆虫が繁殖し、トンボが産みつけた卵から孵った幼虫のヤゴがそれをエサにして育つ……。

たいいてい場合はせっかく育ってもシーズン前に水を抜いてきれいに清掃をすれば生きものたちは全滅の運命。そのヤゴたちを事前に救出し、

子どもたちが家庭で育ててトンボにまでしようという活動が立川市内で行われている。

6月7日には砂川町の見影橋公園プールで「ヤゴ救出作戦」=写真=。親子三代で参加した人を含めてシオカラトンボやアキアカネのヤゴを網でつかまえ、飼い方を教わった。いまごろは、持ち帰ったプール生まれのトンボたちが立川の空を飛んでいるにちがいない。

この人この店 ①

紙匠 雅

店主 吉田徳雄さん

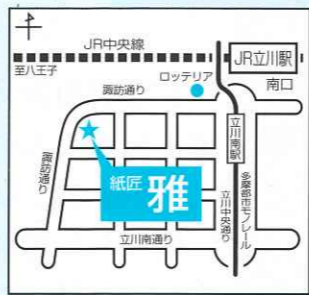


店主の吉田徳雄さん

〒190-0023
立川市柴崎町2-2-19
TEL 042-548-1388
営業時間 AM10:00～PM7:00
定休日 第1日曜(その他の日・祭日はPM6:00まで)

「和紙は奥が深く勉強中です」と謙遜される吉田さん。趣味の書道が高じて書道用品専門店に30年勤続した後、三多摩文化の中心立川で「雅」を開きました。書道用品専門の「キョー和」姉妹店なので、書道用品はもちろん古軸の再生や額装、赤ちゃん筆を作ってもらうこともできます。店主自身のこだわりは紙。和紙の魅力を日常生活に生かしてもらいたい。そんな思いがお店にはあふれています。書く、描く、作る、飾る和紙——作家もののインテリア和紙、それを利用した照明器具などが店内に所狭しと置いてあります。お値段も、作家ものの拝宮和紙で3000円から。石州和紙は名前や屋号を渡さこんでもらって1800円。子供のうちから和紙に親しんでもらいたい夏休み特別企画は、「紙すきで一緒に楽しもう!」。今まで書に触れたことのない方には、月1回の「吉沢和子先生のハガキで筆遊び」講座もお勧め。

「和の玉手箱」——吉田さんのお店はそんな和紙専門店です。



「雅」店内



インテリア和紙

◆ たれゆえぐさ ◆
タチカワ誰故草 ① ◆

2DKのかくれんぼ

森 忠明

前立腺を煩っている父が、しきりに便所を使うので、ゆっくり用を足せない私は、パレスホテル立川のトイレをしぼしばりに行く。シャワレット付きの伊勢丹のも貴重しているが、開店まで待てないことが多い。

五月の日曜の朝。パレスへ向かう途中、私の頭髪の中に一匹の花潜ハナカゲが飛びこんできた。

「こんな虫でも俺が、花のある男」だと分かるんだな。立川だけにモグって三十年も立川と自分のことだけ書いてきた俺はさしづめタチカワムグリか……」

そんな馬鹿をつぶやくつ用をすませ帰宅すると、立川二中(我が母校)の一年生になったばかりの蘭ラン(豚児の名)が、ウインドウズの画面を見ながら「パパ、世の中にはキトクな人がいるねえ。ほら、ここ」指す部分をのぞくと、「いくさたくみ」なる三十二歳の旭川在住の青年が、「好きな作家」として——澁澤龍彦、中勘助、山田風太郎、ステイブ・キング、森忠明——と列挙しているではないか。照れかくしに「シブイ選択じゃんか」と言ったら、常にスーパーキールな娘は「シブ過ぎる」とか小声でコメントして他の検索にうつった。

くだんの花潜は、パレスホテルの玄関から中央図書館の方へ優雅に飛空して消え、

「いいなあ、自由で、羽のあるやつは」

また私に独りごとを言わせた。

生まれ育って五十五年、この街しか知らないが、ここは比較的自



挿画：野崎義成

由感のある地点なので、どうしても羽が欲しいとは思わない。私のもとで六年間童話を勉強しているANA国際線客室乗務員の洋子さんは、「世界のどこへも行ったことがないのに、人間世界を深く知っている森センセイを尊敬しています」などとのたまう。

「俺を感服するな。大金と、あんたみたいな美形が付きそいなら世界のどこへだって行ってえんだぜ」

やや野卑な話法は、昭和三十年代、疾風怒濤のタチカワで少年時代をすごした者の特長なので、ご寛恕を願う。

ゆうべ、NHKテレビの「独立時計師たちの小宇宙」というのをみていると、スイスの超複雑時計製作者が「(直径30mmの中に)無限の広がりがあるのです」としゃべった。するとすぐ、私の脳味噌は四方谷馬翔ヨシマサ(「えくてびあん」前編集長立井啓介氏の俳号)の秀句に連絡した。

秋霖や2DKのかくれんぼ

「そうさ、そうなんだ——子どもの無限の想像力は、2DKやタチカワの狭さから宇宙へ溶融して果てしなく遊ぶのだ——」

またまた独りごち、パレスホテル2Fの「ロイヤル・オーク」へおもむき、オンザロックの丸氷マルヒョウに地球全体の行く末を想い、「ホーン岬まで(拙作品名)と名づけられたカクテル(九百円)を味わいながら、南アメリカ南端の海波に想いをいたしたのである。

表紙の人

クロード・デコートさん(高松町)

カナダでもフランス語を守り続ける誇り高きケベック州出身の彫刻家。若くしてフランス、エジプトを回り、京都で彫刻を学んだ後インド経由で再来日。彫刻に専念すべく高松町に「サロン・ケベック美容室」をオープンしたのは昭和55年のこと。美容院経営をしながら国立のアトリエで精力的に制作を続けている。流暢な日本語とフランス語を駆使しつつ、お店のある立川、アトリエのある国立にしっかりとどけ込んでいる。

撮影場所：国立市のアトリエ
写真：細江英公

かたこと

本年2月号の後、6月に臨時号を出したのみで休刊を余儀なくされました。深くお詫言申し上げ、創刊20周年の節目と重なる本号より再び月刊でお届けいたします

▼創刊以来編集人をつとめた立井啓介が引退し、多くの方からご心配や励ましをいただきました。これも前編集人の19年余の蓄積と、その間えくてびあんにお寄せいただいたみなさまの温かいお心のおかげです。ありがたさを噛みしめた休刊期間でもありました▼二十歳になってスタートする大きなテーマは「多摩川」です。立川、多摩、東京を貫く大河の多彩な表情を、人とかかわりのなかでご紹介したいと考えています▼笠取山中の多摩川源頭「水干」はつましみのなかに神々しい領域でした。対談をお願いした三田鶴吉さんからは川への深い想いをうかがい様を正す思いです。知久正義さんの風景画もじっくりとご覧いただきたい。国営昭和記念公園のこもれびの里、市内のすてきなお店とすてきなご主人……▼これからは立川に人がいて、えくてびあんがあります。よろしくお願ひ申し上げます。(賀)

スタッフ

編集 大久保清志/清水恵美子/杉山清純
中薫子
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)
AMNET designfactory
写真 五来孝平/中村 伸

えくてびあん (C) 8月号

第22巻 通巻225号
平成15年8月1日発行
発行 えくてびあん編集工房
〒190-0012
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
編集人 芳賀敏博
発行人 瀬尾勤三
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。



「多摩川畔」

1999年 100P

知久 正義
(ちく・まさよし)
洋画家

1943年千葉県生まれ。教員として3年間三宅島に赴任した後、本格的に油彩を描き始める。光風会、日展で活動するとともに、多摩秀作美術展、WILL50人展などにも積極的に参加している。砂川町在住。



多摩川との出会いは偶然の縁のよ
うなものだった。それまで三宅島の
風景を中心に描いていたが、立川に
住まいを持ち子どもが生まれると気
軽に遠出はできない。そんなとき身
近なところに多摩川があった。広々
とした空間に三宅島の海と空に共通
するものを感じた。それ以来のつき
合いが続いている。

この作品は初めて日展に入選した
もので思い出深い。夏、JR矢川駅
の下あたりから聖蹟桜ヶ丘方向を見
ている。手前に四谷大橋ができたが
風景自体はいまも当時とそれほど変
わっていない。もつとも近くではコ
ンクリート製の魚道や、テトラポツ
トが一面に敷かれたりし、川の様相
は大きく変わった。